東根市商工会 | 吉田屋（菓子製造小売業）

支援テーマ
創 経 源 農 販
海 再 承 も 雇
資 持 他

特産フルーツを使った新スイーツで新規顧客開拓にチャレンジ

課題 商圏が小さく商品アイテムも少ない

県内陸部に位置する東根市は日本一のサクランボの産地として知られるが、そのほかにリンゴ、もも、ラ・フランスの生産が盛んなフルーツのまちだ。そんな東根市で吉田屋（従業員２名）は昭和３年から営業を続ける洋菓子店である。クッキー、マドレーヌなどの焼き菓子のほか、ケーキ、シュークリーム、プリンなどを販売しているが、商圏が小さく、商品アイテムも限られているため、近年は売り上げが低迷していた。そうした現状を打破するためにも、新商品の開発と新規顧客の開拓が急がれていた。

支援 生産者と事業者をつなぐ連携役として

ちょうどその頃、東根市商工会では、地元の生産者から「サクランボを使ったバウムクーヘンの製造委託ができないか」という相談を受けていた。商工会では委託先を探したが、東根市内に対応できるところはなく、近隣の市町村にも照会。それでも、適切な委託先は見つからなかった。そこでやむなく再度、市内の菓子店に打診したところ、名乗りを上げたのが、商品開発を模索していた同店だった。

新たなバウムクーヘンの要望は、土産品として「東根らしさ」を表現した商品であることだった。生産者側は、サクランボを洋菓子の原料にすることで傷モノや規格外品を有効活用できるという狙いもあった。つまり、事業者にもサクランボ農家にとってもメリットのあるアイデアであったため、商工会では商品開発と販路拡大に向けた支援を開始することになった。

そこで、まず平成25年３月に新商品・新サービス開発支援事業の助成金申請を行い、資金計画を支援するとともに、生産者と同店の連携を進めて試作試食会をサポート。続いて経営革新計画の策定とともに、小規模事業者持続化補助金の申請支援も実施。

こうして新商品の製造に対応できる設備を整える一方、販路拡大を目指して平成 26 年の「ニッポン全国物産展」に出展すべく、その準備を支援した。出展においては商品の見せ方がカギとなるため、エキスパートバンク事業を活用して専門家を派遣。パッケージや告知方法、出展ブースの効果的なディスプレイについて支援を仰いだ。

そして平成 26 年 11 月、晴れ舞台である全国物産展に出展した同店のブースには、「果樹の実ばうむ」の“さくらんぼ”“ラ・フランス”“りんご”という３つの新商品が並ぶことになった。

地域の特産フルーツを使った「果樹の実ばうむ」

支援の経過

期 間	支援内容
H25年３月	試作試食会と資金計画を支援
H26年２月	経営革新計画の策定支援
５月	持続化補助金の申請支援
６月	専門家のパッケージ支援
11月	専門家のディスプレイ支援 ニッポン全国物産展に出展

経営指導員から

地域内外に商品知名度を高めて事業者の収益向上を図るとともに、地元生産者の果物を菓子加工できることを浸透させて、規格外農産物の付加価値向上を目指していきたいと思っています。新商品開発とプロモーションの両方を経験させてもらいましたが、今回生まれた新商品が店の看板商品となるよう、応援していきたいと考えています。

東根市商工会
村岡 義幸さん
※所属商工会は支援当時